


●ガバナー 佐々木 千佳子 ● 会長 米内 安芸 ● 幹事 吉田 賢治 ● コミュニケーション委員長 大橋 央雅

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinohehinamirc/

 Facebook ページに「いいね！」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2016/

第 2041 回 例会 記録

《国際奉仕委員会担当例会》

2017 年 11 月 16 日 (木)

点鐘 12：30

レポート No. 1473

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



《ゲスト》

加藤雄彦様 (仙台 RC)

加藤宏明様 (仙台育英学園 ILC 青森)

《ビジター》

RI 第 2830 地区南 G ガバナー補佐

三浦一義様 (五戸 RC)

《会長要件》 米内会長



悲しいお知らせです。私たちのクラブの第 10 代会長を務めていただいた森先生がお亡くなりになり今日お葬式に行っていました。ご冥福をお祈りいたします。

本日は国際奉仕委員会の担当例会です。南浦項の訪問は無事大役を果たしてまいりました。まずはクラブの皆様にお礼を申し上げます。また、厚くおもてなしをしてくださった南浦項の皆様の浦項での地震も心配なところですが、今日はわざわざ仙台育英の加藤校長先生と八戸でお仕事をされている加藤様においでいたたいております。南浦項の詳しい報告は 30 日の例会でさせていただきます、今日はレインボネシア水と衛生プロジェクトのお話をいただくことになっています。今日はよろしく願いいたします。

《幹事報告》 吉田賢治幹事

- ・クリスマス例会の出欠を取っています。
- ・ロータリー日本事務局よりトロント国際大会の案内が届いています。
- ・第 6 回日台親善会議の案内が届いています。
- ・地区ロータリー財団セミナー一件補助金セミナー開催の案内が来ています。
- ・ハイライト米山が届いています。
- ・昨日浦項で大きな地震があったとのことでお見舞いのメールを事務局よりしてあります。本日、吉田直前会長から前年度の国際奉仕委員長の金さんにラインで問い合わせたところ、大きな被害はなくクラ



《出席報告》 田守副委員長



正会員数 38 名。本日の出席は免除会員 3 名を含む 21 名。出席率は 63% です。前々回の例会は、出席率 69% でした。

ブ会員ご家族にも大きな被害はなかったとの返事をいただきました。

・八戸クリーンパートナー研修会のお知らせが来ています。

《ニコニコボックス》 西尾委員長

仙台 RC 加藤様：本日はお世話になります。

三浦ガバナー補佐：地区大会への参加ありがとうございました。

米内会長：仙台育英学園加藤校長先生、今日はよろしく願いいたします。

伊藤会員：加藤様、本日はよろしく願いいたします。

西村会員：南浦項訪問の皆様、ご苦勞様でした。私も行きたかったです。

三笠会員：「水と衛生のプロジェクト」へのご協力ありがとうございました。



《ご挨拶》 南 G ガバナー補佐 三浦一義様



地区大会には多数の皆様に参加いただきまして盛会裏に終わりました。大変ありがとうございました。そしてまた、次年度ガバナー補佐を久保田様に引き受けていただき誠にありがとうございます。

さて、地区大会も終わりました五戸ロータリークラブ IM の実行委員会を立ち上げ計画を立てております。以前お話をしました通り講演の形を取りたいと思っております。講師は公益財団法人日本生態系協会、池谷奉文さまでございます。講演のテーマとして日本の国作り、日本の環境世界の環境をどうするというところで継続可能な社会を作るにはどうしたらいいかという様なお話になるようです。地区大会でも三井所先生が生業の生態系の保全と言

う様な事もありました。RI 会長のテーマに沿った基本的なお話になると思います。どうぞ期待して、また、懇親会の方も 50 周年大変お世話になりました。好評をいただきましたがそれに負けず劣らずの歓待をしたいと思いますので南クラブの皆様には多数御参加をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

《ゲスト卓話概要》三笠会員



4 月 20 日の南クラブの例会に於きまして仙台 RC よりご依頼のありました、水と衛生のプロジェクトに関しまして皆様にお話したところ快くご寄付をいただきまして大変ありがとうございました。工事も無事終わり現地の方々も水がしっかり出るということで笑顔で日々の生活を送っているということでございます。今日はその報告も兼ねまして仙台 RC 会員、仙台育英学園の理事長校長先生であります加藤雄彦様の方から報告させていただきます。

《ゲスト紹介》米内会長

それでは加藤雄彦理事長校長先生のご紹介をいたします。先生は昭和 33 年 2 月にお生まれになり昭和 57 年 3 月慶應義塾大学大学院経営管理研究科を終了され MBA 経営学修士を取得されております。平成 8 年 7 月に仙台育英学園高等学校校長、平成 15 年 4 月に秀光中等教育学校校長、平成 19 年 6 月に学校法人仙台育英学園理事長になられました。平成 23 年 11 月にはキューバ共和国国家評議会から友好勲章を授与され、平成 28 年 11 月、秋の褒章で藍綬褒章を受章されました。ロータリーでは本年度ポールハリスフェロー・メジャードナーになっております。簡単な紹介でしたが今日はよろしくお願ひいたします。

《ゲスト卓話》加藤雄彦様（仙台 RC）



皆さんこんにちは、仙台ロータリークラブで今年は親睦友好委員長をやっております。121 名の会員がおりますので、その中で新会員が入りますと自動的に親睦友好委員会に入ってきます。今年は 23 名の方が入れましたが、お偉い方々ばかりで私のようにまだロータリー歴 10 年位の若造にはなかなかやりにくい面もありますが、大変良い勉強をさせていただいております。

まずはお礼申し上げます。八戸南ロータリークラブの皆様方のご芳志によりまして無事、レインボネシア水と衛生プロジェクトは完了いたしました。そのご報告に ILC 青森での用事もあり昨晚から参りました。今日 PC を操作しています加藤宏明先生はじめ三勝勝彦先生もお勤めの港高台にございます仙台育英学園高等学校広域通信生課程 ILC 青森、ちょっと名前が長いですが、今は八戸駅前にも学習センターを作りました。おかげさまで卒業生 700 人近く出しております。私たちの使命は高等学校を中途退学されるようなお子さん方をしっかり高校卒業資格を取らせて、納税者として日本国民としての義務を果たさせるというのを一番の使命と考えて、通信

制課程を八戸と、もちろん宮城県仙台が本部でもう一つ沖縄県沖縄市にございます。こちらの方を含めて 700 人近い学生が在籍しています。ちょっと話がそれますが全日制課程の方は 3,000 人ほど学生がおり、教職員 500 人ほどいる学園でございます。今年で 112 年目を迎えますが創立者が会津若松出身、2 代目は海軍大佐で下北の大湊の鎮守府の司令を昭和 11 年、13 年と 2 回ほどこちらでお世話になっております。会津藩として大変お世話になったということでこの三八に学校を作ろうと光星学園さんの協力を得ながらやってきたところでございます。

今回のお話の中では、南ロータリーさんの会報で黒田先生が戦略的に物事を考えていかなければいけないんだよというお話をなさっていたのを拝見し、非常に共感致しました。なぜ戦略的なことが必要なのかということになりますが、2015 年の 4 月にミクロネシア連邦のチューク州を襲ったスーパー台風メイサークにより壊滅的な打撃を受け生活が出来ないような状況になり大変だという話を聞いてまず調査しようではないかと、動機はこの台風だったのですけれども、調査をして分析をしてそれをロータリー財団のグローバルグラントを使ってやろうと最初考えまして 2520 地区と一緒に検討してきたということがございます。途中で 2520 のグローバル補助金に切り替えるわけですが、その原因が RF のフォーマットが去年の 12 月 16 日に変わりましたもう一回全部書き直さなければならぬとなりました。我々もそうですがパートナーである 2750 地区のポンペイロータリークラブ会長との間ではメールのやり取りでやろうということになっていたのですが、肝心のチューク州の女性自立健康促進活動支援多目的施設を運営しています女性の団体の方々が途中でギブアップしてしまいました。英文で全部作り直すのは嫌だと、我々が全部作文してもいいのですがこのプロジェクトは持続可能なものでなければいけない、我々がポンと送ったもので終わりであれば今の RI の考えと違うでしょうということはどうやってやっていくかと考えると、無理のない方法にしようグローバルグラントから DDF に変えてやったという経緯がございます。（この後スライドを使いながらご説明頂きました。）

「レインボネシア水と衛生プロジェクト」

水タンクの寄贈式について（11.16）

仙台ロータリークラブ 2015-2016 年度国際奉仕委員会委員長 加藤雄彦（2017-2018 年度親睦友好委員長）

仙台ロータリークラブ（国際ロータリー第 2520 地区）とミクロネシア連邦ポンペイ州ポンペイロータリークラブ（国際ロータリー第 2750 地区）は、2015 年 4 月初旬、ミクロネシア連邦チューク州を襲ったスーパー台風“メイサーク”により甚大な被害を被ったウエノ島に拠点を持つチューク女性評議会（通称 CWC）を受益者とし、その施設である「シノブ・ポール・メモリアルセンター」に、安全な水を供給する為の雨水集水貯水システムを新たに設置するプロジェクト、「レインボネシア水と衛生プロジェクト」を実施致しました。同プロジェクトは、ロータリー財団地区補助金を利用し、東京田園調布緑ロータリークラブ、東京白金ロータリークラブ、東京羽田ロータリー

クラブ、八戸南ロータリークラブ、鎌倉ロータリークラブの支援により実現化され、2017年10月9日、水タンク3基(4万米ドル/400万円)を擁するシステムの完成を祝い、現地チュークにて贈呈式を行いました。



2017年10月8日、杼窪昌之会長を初めとした会員3名、大槻昌夫、五十嵐透、加藤雄彦による訪問団がミクロネシア連邦チューク州ウエノ島に到着。10月9日、午前中にチューク州のマリウス・アカピト副知事に面会し、水タンク寄贈について感謝の言葉を頂きました。その後、水タンクが設置された「シノブ・ポール・メモリアルセンター」にて、寄贈式が行われました。地元の祭祀によるお祈りに合わせてテープカットと除幕が行われました。その後、チューク女性評議会メンバーによる感謝の歌が披露されました。

チューク女性評議会は、女性の自立、健康、福祉の促進を目指すNGOであり、その施設に毎日、多くの女性と子供が集まり、様々な相談や職業自立訓練を実施している。世界中から多くのNPOボランティアが支援に駆けつけていますが、安全な水の確保が大きな課題でした。この度、寄贈された3基の水タンクは、1基当たりの5,700リットルの雨水を貯水し、同施設を訪れる女性と子供たちに綺麗で安全な水へのアクセスを確保出来る様に成りました。新しく設置された浄水器から出る水を美味しそうに飲む子供達から多くの感謝の言葉を頂きました。このプロジェクトは大槻会長年度(2015-2016年度)に始まり伊藤会長年度、そして杼窪会長年度に跨る3カ年間の事業でした。



2017年、創立80周年を迎えた仙台ロータリークラブは、仙台市で最も伝統あるロータリークラブとして、会員数120名を擁し、多くの国際的な奉仕活動を実践して参りました。特に「東日本大震災」発生後は、被災地の中心都市にあるロータリークラブとして復興支援奉仕活動の先頭に立って参りました。復興に邁進する中、海外の多くのロータリークラブより寛大なご支援を賜り、国際奉仕の理念の素晴らしさを実感して参りました。

その様な中、2016年4月、ミクロネシア連邦のジョン・フリッツ駐日大使閣下に、クラブ例会にてご講演頂く機会を得ました。講演の中で、ミクロネシアの人々が、震災直後より、日本の被災者のため祈ろう、悲しみを分かち合おう、そして何か自分たちでできる事をしようとの支援の輪を広げ、国を構成する多数の島々に活動の根が広がり、「ミクロネシアと日本は、歴史的にも深い関係にあり、今日においても心情や価値観を共有する関係であり、特に、これまで日本から受けた経済開発支援に感謝し、被災地の一日も早い復興の願いを込めて、市民から募った義援金をお渡ししたい」との心のこもったメッセージと共に、多額の義援金を頂いた事実に会員の多くが感銘を受けました。

この内容を受け、仙台ロータリークラブではミクロネシアへ何か恩返しが出来ればと、会員がチューク州を度々訪れ、草の根レベルの絆を深めて参りました。そして、チューク州の女性の自立、健康増進を支援するチューク女性評議会の活動に接し、同評議会を「レインボネシア水と衛生プログラム」の受益者とする事が決定されました。今日でも、同州では、不衛生な水を原因とした疾病が蔓延している現実があります。安全な水へのアクセスは、女性の自立や健康に貢献すると共に、子供の就学機会を確保し、ロータリーが掲げる「水と衛生」と「識字率向上」の2つの大きな活動目標に適う、大変意義のあるプロジェクトであり、同州の福祉の向上に寄与出来れば幸いと考えております。

ミクロネシア連邦チューク州は、1933年に連載が始まった漫画「冒険ダン吉」のモデルとなった高知県出身の森小弁が1892年に当時のトラック諸島に移住して以来、第一次世界大戦終結後は大日本帝国の委任統治領として南洋庁の支庁が置かれました。さらに戦略上の要衝として海軍基地の整備が推進され、多くの日本人が移住した、日本と大変深い繋がりを持つ土地です。太平洋戦争中の1944年2月には、米

軍によるトラック島空襲により日本人のみならず、多くの現地の人々が亡くなられた悲しい過去も共有しています。未来に語り継がれるべき戦争の爪痕と、輝くような美しい海が残るミクロネシア連邦との交流は、太平洋の世紀である今こそ強く求められており、今後は、日本とミクロネシアの若者の交流を中心に、絆を更に深める活動を行って行けたらと希望しております。



加藤様ありがとうございました。